

丈夫な血管 長生きのもと

一年にわたって血管外科が扱う病気についてお話ししてきたのも、今回が最後になりました。脈管を覚えていきますか？ 動脈と

静脈、それにリンパがあります。

リンパ浮腫

日本で見られるリンパの病気では、上肢や下肢が浮腫んで治らないリンパ浮腫がほとんどです。若年者の原発性リンパ浮腫は、生まれつきのリンパ管の発達異常が原

因ですが、滅多にありません。多くは、悪性腫瘍の手術後しばらくしてむくみが出る、乳癌術後の上肢、子宮癌術後の下肢リンパ浮腫です。

癌の「リンパ節転移」を

多くは癌術後に発症

ご存じと思います。リンパ管を伝って癌の細胞が広がっていくことです。癌の手術では、転移している可能性のある癌細胞を取り除くため、一般的にはリンパも一緒に切除します。癌の治療効果は良くなりますが、リンパ

の通り道を取ってしまうのでむくみの原因になります。

転移している可能性の高いリンパ節だけをとりように腫瘍外科医も努力していますが、全くリンパ浮腫が起きなくなる方法は現在ありません。

むくみに早く気づい

て、むくみが柔らかな時期にマッサージなどでリンパの流れを作る治療が有効です。強い圧迫ではなく、デリケートなタッチでむくんでいない部分にむくみを誘導して、弾力ストッキングなどを使用します。時間が経つと

浮腫組織の中に線維成分が増えてきて戻りにくくなります。

細かい皮膚の傷から細菌感染を起こすことが無いように、スキンケアも大切です。

短い連載でしたが、病気の話を通じて、健康への血管の重要性を認識していただければ望外の喜びです。ありがとうございました。(終わり)

錦見 尚道先生
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院修了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。